



Trace

- [Trace \(1 ページ\)](#)
- [トレースの設定 \(5 ページ\)](#)

Trace

Cisco Unified Serviceability では、音声アプリケーションの問題のトラブルシューティングで利用できるトレース ツールを提供しています。Cisco Unified Serviceability は、SDI (System Diagnostic Interface) トレース、Cisco CallManager サービスおよび Cisco CTIManager サービス用の SDL (Signaling Distribution Layer) トレース (Unified Communications Manager に適用可能)、および Java アプリケーション用の Log4J トレースをサポートしています。

トレースする情報のレベルや、各トレース ファイルに含める情報の種類は、[トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウを使用して指定します。

Unified Communications Manager のみ：サービスが、Cisco CallManager や Cisco CTIManager などのコール処理アプリケーションの場合、電話機やゲートウェイなどのデバイスに対してトレースを設定することができます。

Unified Communications Manager のみ：[アラーム設定] ウィンドウで、SDL トレース ログ ファイルなど、さまざまな場所にアラームを送ることができます。必要に応じて、Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (Unified RTMT) での警告用にトレースを設定することもできます。

さまざまなサービスに対しトレース ファイルに含める情報を設定したら、Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool の Trace and Log Central オプションを使用して、トレース ファイルを収集および表示できます。

Cisco Unified IM and Presence Serviceability には、インスタント メッセージングおよびプレゼンス アプリケーションの問題のトラブルシューティングに利用できるトレース ツールが用意されています。Cisco Unified IM and Presence Serviceability では、次のトレースをサポートしています。

- SDI トレース
- Log4J トレース (Java アプリケーション用)

トレースする情報のレベル (デバッグレベル)、トレースする情報 (トレースフィールド)、トレースファイルに関する情報 (サービスあたりのファイル数、ファイルのサイズ、およびデータがトレースファイルに保存されている時間など) を設定することができます。1つのサービスのトレースを設定したり、そのサービスのトレース設定をクラスタ内のすべてのサーバに適用したりできます。

[アラーム設定 (Alarm Configuration)] ウィンドウでは、さまざまな場所にアラームを送ることができます。必要に応じて、IM and Presence Unified RTMT での警告用にトレースを設定することもできます。

さまざまなサービスに対しトレース ファイルに含める情報を設定したら、Unified RTMT の Trace and Log Central オプションを使用して、トレース ファイルを収集および表示できます。クラスタ内の任意の IM and Presence ノードで使用できる任意の機能またはネットワーク サービスのトレース パラメータを設定できます。[トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウを使用して、問題をトラブルシューティングするためにトレースするパラメータを指定します。独自のトレース フィールドを選択する代わりに、あらかじめ決められたトラブルシューティングトレース設定を使用するには、[トラブルシューティングトレース設定 (Troubleshooting Trace Settings)] ウィンドウを使用します。



(注) トレースをイネーブルにすると、システムのパフォーマンスが低下します。そのため、トレースは、トラブルシューティング目的でのみイネーブルにします。トレースの使用について支援が必要な場合は、Cisco Technical Assistance Center (TAC) にお問い合わせください。

トレース設定

有用性インターフェイスに表示される機能またはネットワークサービスのトレースパラメータを設定できます。クラスタがある場合は、クラスタ内の任意のサーバで使用できる機能またはネットワーク サービスに対してトレース パラメータを設定できます。[トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウを使用して、問題をトラブルシューティングするためにトレースするパラメータを指定します。

トレースする情報のレベル (デバッグレベル) 、トレースする情報 (トレースフィールド) 、およびトレースファイルに関する情報 (サービスごとのファイル数、ファイルサイズ、トレースファイルにデータが保存された時間など) を設定できます。クラスタがある場合は、1つのサービスのトレースを設定するか、またはそのサービスのトレース設定をクラスタ内のすべてのサーバに適用することができます。

独自のトレースフィールドを選択する代わりに、あらかじめ決められたトラブルシューティングトレース設定を使用するには、[トラブルシューティングトレース (Troubleshooting Trace)] ウィンドウを使用します。トレースのトラブルシューティングの詳細については、「トレース設定」を参照してください。

さまざまなサービスに対しトレース ファイルに含める情報を設定したら、Unified RTMT の Trace and Log Central オプションを使用して、トレース ファイルを収集できます。トレース収集に関する詳細については、「トレース収集」を参照してください。

トレース設定

[トラブルシューティング トレース設定 (Troubleshooting Trace Settings)] ウィンドウでは、事前に設定されたトラブルシューティング トレース設定に設定するサービスを選択できます。このウィンドウでは、1つ以上のサービスを選択し、これらのサービスの設定を、事前に設定されたトレース設定に変更できます。クラスタがある場合、クラスタ内の異なるサーバ上のサービスを選択して、そのサービスのトレース設定を事前に設定されたトレース設定に変更することができます。1台のサーバの特定のアクティブ化されたサービス、サーバのすべてのアクティブ化されたサービス、クラスタ内のすべてのサーバの特定のアクティブ化されたサービス、クラスタ内のすべてのサーバのすべてのアクティブ化されたサービスを選択できます。このウィンドウでは、非アクティブなサーバの横に [N/A] と表示されます。



- (注) 機能またはネットワーク サービスの事前に決定されたトラブルシューティング トレース設定には、SDL、SDI、および Log4j トレース設定があります。トラブルシューティング トレース設定が適用される前に、元のトレース設定がバックアップされます。トラブルシューティング トレース設定をリセットすると、元のトレース設定が復元されます。

トラブルシューティング トレース設定をサービスに適用した後で [トラブルシューティング トレース設定 (Troubleshooting Trace Settings)] ウィンドウを開くと、トラブルシューティング用に設定したサービスがチェック付きで表示されます。[トラブルシューティング トレース設定 (Troubleshooting Trace Settings)] ウィンドウでは、トレース設定を元の設定にリセットできます。

トラブルシューティング トレース設定をサービスに適用すると、トラブルシューティング トレースがそのサービスに設定されたことを示すメッセージが [トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウに表示されます。サービスの設定をリセットする場合は、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスから、[トラブルシューティング トレース設定 (Troubleshooting Trace Settings)] オプションを選択できます。指定したサービスの [トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウでは、すべての設定が読み取り専用として表示されます。ただし、最大ファイル数など、トレース出力設定の一部のパラメータを除きます。これらのパラメータは、トラブルシューティング トレース設定を適用した後でも変更できません。

トレース収集

各種サービス トレースやその他のログファイルを収集、表示、および zip 圧縮するには、Trace and Log Central (Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool のオプション) を使用します。Trace and Log Central オプションを使用すると、SDL/SDI トレース、アプリケーションログ、システムログ (イベントビューアアプリケーションログ、セキュリティログ、システムログなど)、クラッシュ ダンプ ファイルを収集できます。



ヒント 収集されたトレースファイルを表示するために、収集したトレースファイルを表示するために Windows NotePad を使用しないでください。これは、Windows NotePad で改行が正しく表示されないためです。



(注) Unified Communications Manager のみ：暗号化をサポートするデバイスでは、Secure Real-time Transport Protocol (SRTP) のセキュア キー関連情報はトレース ファイルに表示されません。

トレース収集の詳細情報については、『Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド』を参照してください。

着信側トレース

着信側トレースでは、トレースする電話番号または電話番号のリストを設定することができます。セッショントレース ツールを使用してコールのオンデマンド トレースを要求できます。

詳細については、『Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide』を参照してください。

トレース設定のセットアップ

次の手順は、有用性インターフェイスで機能およびネットワークサービスのトレースを設定および収集する手順の概要を示しています。

手順

- ステップ 1** 次のいずれかの手順を実行して、TLC Throttling CPU Goal および TLC Throttling IOWait Goal サービス パラメータ (Cisco RIS Data Collector サービス) の値を設定します。
- Cisco Unified Communications Manager Administration および Cisco Unified IM and Presence : システム > サービス パラメータ を選択し、TLC Throttling CPU Goal および TLC Throttling IOWait Goal サービス パラメータ (Cisco RIS Data Collector サービス) の値を設定します。
 - Cisco Unity Connection のみ : Cisco Unity Connection Administration で [システム設定 (System Settings)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] を選択し、TLC Throttling CPU Goal および TLC Throttling IOWait Goal サービス パラメータ (Cisco RIS Data Collector サービス) の値を設定します。
- ステップ 2** トレースを収集するサービスのトレース設定を行います。クラスタがある場合、1 台のサーバ、またはクラスタ内のすべてのサーバに対してサービスのトレースを設定できます。
- トレース設定を行う場合、デバッグ レベルとトレース フィールドを選択してトレース ログに含める情報を選択します。

サービスで事前に設定されているトレースを実行する場合は、これらのサービスのトラブルシューティング トレースを設定します。

- ステップ 3** ローカル PC に Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool をインストールします。
- ステップ 4** 監視されているトレースファイル内に指定された検索文字列が存在するときにアラームを生成する場合は、Unified RTMT の LogFileSearchStringFound アラートを有効にします。
- LogFileSearchStringFound アラームは LpmTctCatalog にあります。[アラーム (Alarms)] > [定義 (Definitions)] を選択します。[アラームの検索場所 (Find alarms where)] ドロップダウンリストボックスで [システムアラームカタログ (System Alarm Catalog)] を選択し、[等しい (Equals)] ドロップダウンリストボックスで [LpmTctCatalog] を選択します。
- ステップ 5** CriticalServiceDownand CodeYellow など、アラートのトレースを自動的にキャプチャする場合は、Unified RTMT の特定のアラートの [アラート/プロパティの設定 (Set Alert/Properties)] ダイアログボックスで [トレースダウンロードのイネーブル化 (Enable Trace Download)] チェックボックスをオンにし、ダウンロードを実行する頻度を設定します。
- ステップ 6** トレースを収集します。
- ステップ 7** 適切なビューアでログ ファイルを表示します。
- ステップ 8** トラブルシューティングトレースをイネーブルにすると、トレース設定サービスがリセットされて、元の設定に戻ります。

(注) トラブルシューティング トレースを長時間イネーブルのままにすると、トレースファイルのサイズが大きくなり、サービスのパフォーマンスに影響が生じるおそれがあります。

トレースの設定

ここでは、トレース設定の構成について説明します。



- (注) トレースをイネーブルにすると、システムのパフォーマンスが低下します。そのため、トレースは、トラブルシューティング目的でのみイネーブルにします。トレースの使用について支援が必要な場合は、テクニカル サポート チームにお問い合わせください。

トレース パラメータの設定

ここでは、Serviceability GUI で管理する機能サービスとネットワーク サービスのトレース パラメータを設定する方法について説明します。



ヒント Cisco Unity Connection では、Cisco Unified Serviceability および Cisco Unity Connection Serviceability でトレースを実行して Cisco Unity Connection の問題をトラブルシューティングする必要がある場合があります。Cisco Unity Connection Serviceability でトレースを実行する方法については、『Cisco Unity Connection Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。

手順

ステップ 1 [トレース (Trace)] > [設定 (Configuration)] を選択します。

[トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストボックスから、トレースを設定するサービスを実行しているサーバを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

ステップ 3 [サービスグループ (Service Group)] ドロップダウンリストボックスから、トレースを設定するサービスのサービスグループを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

ヒント 「トレース設定のサービスグループ」の表に、[サービスグループ (Service Group)] ドロップダウンリストボックスに表示されるオプションに対応するサービスとトレースライブラリの一覧を示します。

ステップ 4 [サービス (Service)] ドロップダウンリストボックスからトレースを設定するサービスを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

ドロップダウンリストボックスには、アクティブなサービスと非アクティブのサービスが表示されます。

ヒント Cisco Unity Connection のみ: Cisco CallManager および CTIManager サービスの場合は、SDLトレースパラメータを設定できます。設定を行うには、いずれかのサービスの [トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウを開き、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスの横にある [移動 (Go)] ボタンをクリックします。

サービスのトラブルシューティングトレースを設定した場合は、トラブルシューティングトレース機能が設定されていることを示すメッセージがウィンドウの上部に表示されます。これは、トレースを除いて、[トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウのすべてのフィールドが無効になっていることを意味します。出力設定。[トレース出力設定 (Trace Output Settings)] を設定するには、ステップ 11 に進みます。トラブルシューティングトレースをリセットするには、トラブルシューティングトレース設定のセットアップを参照してください。

選択したサービスのトレースパラメータが表示されます。また、[すべてのノードに適用 (Apply to All Nodes)] チェックボックスが表示されます (Cisco Unified Communications Manager のみ)。

ステップ 5 Unified Communications Manager および IM and Presence のみ: クラスタをサポートしている設定の場合は、必要に応じて [すべてのノードに適用 (Apply to All Nodes)] チェックボックスを

オンにして、クラスタ内のすべてのサーバにサービスのトレース設定またはトレースライブラリを適用できます。

- ステップ 6** トレースオンチェックボックスをオンにします。
- ステップ 7** Cisco Unity Connection のみ: SDL トレースパラメータを設定する場合は、ステップ10に進みます。
- ステップ 8** 「デバッグトレースレベルの設定」の記述に従って、トレースする情報のレベルを[デバッグトレースレベル (Debug Trace Level)] リストボックスから選択します。
- ステップ 9** 選択したサービスの[トレースフィールド (Trace Fields)]チェックボックス (たとえば、[Cisco Log Partition Monitoring Toolトレースフィールド (Cisco Log Partition Monitoring Tool Trace Fields)]) をオンにします。
- ステップ 10** アクティブ化するトレースを指定できるトレース設定がサービスに複数存在しない場合は、[すべてのトレースをイネーブル化 (Enable All Trace)]チェックボックスをオンにします。選択したサービスに複数のトレース設定がある場合は、[トレース(Trace)]フィールドの説明に従って、有効にする[トレース(trace)]チェックボックスの横にあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 11** トレースファイルの数とサイズを制限するには、トレース出力設定を指定します。説明については、「トレース出力の設定」を参照してください。
- ステップ 12** トレースパラメータの設定を保存するには、[保存 (Save)] ボタンをクリックします。

トレース設定に加えた変更は、Cisco Messaging Interface 以外のすべてのサービスに即座に反映されます (Unified Communications Manager のみ) 。Cisco Messaging Interface のトレースの設定変更は、3 ~ 5 分で有効になります。

(注) デフォルトを設定するには、[デフォルトの設定 (Set Default)] ボタンをクリックします。

トレース設定でのサービス グループ

次の表に、[トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウの [サービス グループ (Service Group)] ドロップダウンリストボックスに表示されるオプションに対応するサービスとトレース ライブラリの一覧を示します。

表 1: トレース設定でのサービス グループ

サービスグループ	サービスとトレースライブラリ	注記
Unified Communications Manager CM サービス (CM Services)	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco CTIManager • Cisco CallManager • Cisco CallManager Cisco IP 電話サービス • Cisco DHCP Monitor サービス • Cisco Dialed Number Analyzer • Cisco Dialed Number Analyzer Server • Cisco Extended Functions、Cisco Extension Mobility • Cisco Extension Mobility アプリケーション • Cisco IP Voice Media Streaming App • Cisco Messaging Interface • Cisco TFTP • Cisco Unified Mobile Voice Access Service 	CM サービス グループのほとんどのサービスでは、サービスのすべてのトレースを有効化する代わりに、特定のコンポーネントのトレースを実行することができます。[トレース (Trace)] フィールドの説明は、特定のコンポーネントのトレースを実行できるサービスを示します。
Unified Communications Manager CTI サービス	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco IP Manager Assistant • Cisco Web Dialer Web Service 	これらのサービスでは、サービスに対してすべてのトレースを有効化する代わりに、特定のコンポーネントのトレースを実行できます。トレース フィールドの説明を参照してください。

サービスグループ	サービスとトレースライブラリ	注記
Unified Communications Manager CDR サービス	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting Scheduler • Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting Web Service • Cisco CDR Agent • Cisco CDR Repository Manager 	<p>特定のコンポーネントのトレースを実行する代わりに、各サービスのすべてのトレースをイネーブルにします。</p> <p>Cisco CDR Analysis and Reporting では、ストアードプロシージャを呼び出すレポートが実行されると、ストアードプロシージャのロギングが開始される前に、CDR Analysis and Reporting が [トレース設定] ウィンドウの CDR Analysis and Reporting Scheduler サービスおよび CDR Analysis and Reporting Web サービスの設定されたデバッグ トレース レベルを確認します。事前生成レポートの場合は、Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting が Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting Scheduler サービスのレベルをチェックします。オンデマンド レポートの場合は、Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting が Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting Web Service のレベルをチェックします。[Debug Trace Level] ドロップダウン リスト ボックスから [Debug] を選択した場合、ストアードプロシージャのロギングがイネーブルにされ、ドロップダウン リスト ボックスで別のオプションを選択するまで続行されます。以下の Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting レポートでは、ストアードプロシージャのロギングが使用されます。ゲートウェイ使用状況レポート、ルートおよび回線グループ使用状況レポート、ルートまたはハント リスト使用状況レポート、ルート パターンまたはハントパイロット使用状況レポート、会議コール詳細レポート、会議コール要約レポート、会議ブリッジ使用状況レポート、ボイス メッセージ使用状況レポート、CDR 検索レポート。</p>

サービスグループ	サービスとトレースライブラリ	注記
IM and Presence サービス	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco Client Profile Agent • Cisco Config Agent • Cisco Intercluster Sync Agent • Cisco Login Datastore • Cisco OAM Agent • Cisco Presence Datastore • Cisco Presence Engine • Cisco IM and Presence Data Monitor • Cisco Route Datastore • Cisco SIP Proxy • Cisco SIP Registration Datastore • Cisco Server Recovery Manager • Cisco Sync Agent • Cisco XCP Authentication Service • Cisco XCP Config Manager • Cisco XCP Connection Manager • Cisco XCP Directory Service • Cisco XCP Message Archiver • Cisco XCP Router • Cisco XCP SIP Federation Connection Manager • Cisco XCP Text Conference Manager • Cisco XCP Web Connection Manager • Cisco XCP XMPP Federation Connection Manager 	<p>これらのサービスの説明については、Cisco Unified IM and Presence Serviceability の機能とネットワーク サービスに関連するトピックを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • これらのサービスでは、特定のコンポーネントのトレースを実行する代わりに、このサービスのすべてのトレースをイネーブルにする必要があります。

サービスグループ	サービスとトレースライブラリ	注記
データベースおよび管理者サービス	<p>Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco AXL Web Service • Cisco CCM DBL Web Library • Cisco CCMAdmin Web Service • Cisco CCMUser Web Service • Cisco Database Layer Monitor • Cisco UXL Web サービス <p>Unified Communications Manager</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Bulk Provisioning サービス • Cisco GRT Communications Web サービス • Cisco Role-based Security • Cisco TAPS サービス • Cisco Unified Reporting Web Service <p>IM and Presence Service :</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco AXL Web Service • Cisco Bulk Provisioning サービス • Cisco CCMUser Web Service • Cisco Database Layer Monitor • Cisco GRT Communications Web サービス • Cisco IM and Presence Admin • Cisco Unified Reporting Web Service • Platform Administrative Web サービス 	<p>Cisco CCM DBL Web Library オプションを選択すると、Java アプリケーションのデータベース アクセスのトレースがアクティブ化されます。C++ アプリケーションのデータベースアクセスの場合は、<code>cisco Extended Functions trace</code> フィールドの説明に従って、Cisco Database Layer Monitor のトレースを有効にします。</p> <p>Unified Communications Manager をサポートする Cisco Role-based Security オプションを選択すると、ユーザ ロールの許可に対するトレースが有効となります。</p> <p>データベースおよび管理者サービスグループのほとんどのサービスでは、特定のコンポーネントのトレースをイネーブルにするのではなく、サービスまたはライブラリのすべてのトレースをイネーブルにします。Cisco Database Layer Monitor の場合、特定のコンポーネントのトレースを実行できます。</p> <p>(注) サービスのロギングの制御は、Cisco Unified IM and Presence Serviceability の UI で実行できます。ログレベルを変更するには、[システムサービス (System Services)] グループと [Cisco CCMService Webサービス (Cisco CCMService Web Service)] を選択します。</p>

サービスグループ	サービスとトレースライブラリ	注記
パフォーマンスおよびモニタリングサービス (Performance and Monitoring Services)	Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection: <ul style="list-style-type: none"> • Cisco AMC Service • Cisco CCM NCS Web Library • CCM PD Web サービス • Cisco CallManager SNMP サービス • Cisco Log Partition Monitoring Tool • Cisco RIS Data Collector • Cisco RTMT Web Service • Cisco Audit Event Service • Cisco RisBean Library Unified Communications Manager : <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CCM PD Web サービス IM and Presence Service : <ul style="list-style-type: none"> • Cisco AMC Service • Cisco Audit Event Service • Cisco Log Partition Monitoring Tool • Cisco RIS Data Collector • Cisco RTMT Web Service • Cisco RisBean Library 	Cisco CCM NCS Web Library オプションを選択すると、Java クライアントのデータベース変更通知のトレースがアクティブ化されます。 Cisco Unity RTMT Web サービス オプションを選択すると、Unity RTMT サブレットのトレースがアクティブ化されます。このトレースを実行すると、Unity RTMT クライアント クエリーのサーバ側のログが作成されます。
Unified Communications Manager セキュリティサービス (Security Services)	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco CTL Provider • Cisco Certificate Authority Proxy Function • シスコ信頼検証サービス 	特定のコンポーネントのトレースを実行する代わりに、各サービスのすべてのトレースをイネーブルにします。
Unified Communications Manager ディレクトリサービス	Cisco DirSync	特定のコンポーネントのトレースを実行する代わりに、このサービスのすべてのトレースをイネーブルにします。

サービスグループ	サービスとトレースライブラリ	注記
バックアップおよび復元サービス	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco DRF Local • Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection のみ : Cisco DRF Master 	特定のコンポーネントのトレースを実行する代わりに、各サービスのすべてのトレースをイネーブルにします。
System Services	Unified Communications Manager : <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CCMRealm Web Service • Cisco CCMService Web Service • Cisco Common User Interface • Cisco Trace Collection Service IM and Presence Service : <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CCMService Web Service • Cisco Trace Collection Service 	<p>Cisco CCMRealm Web Service オプションを選択すると、ログイン認証のトレースがアクティブ化されます。</p> <p>Cisco Common User Interface オプションを選択すると、複数のアプリケーションが使用する共通コードのトレースがアクティブ化されます。たとえば、Cisco Unified Operating System Administration や Cisco Unified Serviceability などが該当します。</p> <p>Cisco CCMService Web Service オプションを選択すると、Cisco Unified Serviceability の Web アプリケーション (GUI) のトレースがアクティブ化されます。</p> <p>特定のコンポーネントのトレースを実行する代わりに、各オプションまたはサービスのすべてのトレースを有効化します。</p>
SOAP サービス	<ul style="list-style-type: none"> • CiscoSOAP Web サービス • CiscoSOAPMessage サービス 	<p>Cisco SOAP Web Service オプションを選択すると、AXL Serviceability API のトレースがアクティブ化されます。</p> <p>特定のコンポーネントのトレースを実行する代わりに、このサービスのすべてのトレースをイネーブルにします。</p>
プラットフォームサービス	Cisco Unified OS Admin Web Service	<p>Cisco Unified OS Admin Web Service は Cisco Unified Operating System Administration をサポートしています。これは、証明書管理、バージョンの設定、およびインストールやアップグレードなどのプラットフォーム関連の機能を管理する Web アプリケーションです。</p> <p>特定のコンポーネントのトレースを実行する代わりに、このサービスのすべてのトレースをイネーブルにします。</p>

デバッグトレースレベルの設定

次の表に、サービスのデバッグトレースレベル設定について説明します。

表 2: サービスのデバッグトレースレベル

レベル	説明
エラー (Error)	アラーム状態およびイベントをトレースします。異常なパスで生成されたすべてのトレースに使用します。最小の CPU サイクル数を使用します。
Special	すべてのエラー状態と、プロセスおよびデバイスの初期化メッセージをトレースします。
状態遷移 (State Transition)	すべての特殊条件と、通常運用中に発生するサブシステムの状態遷移をトレースします。コール処理イベントをトレースします。
重大 (Significant)	通常運用時に発生するすべての状態遷移条件とメディアレイヤイベントをトレースします。
入口/出口	(注) すべてのサービスがこの追跡レベルを使用するわけではありません。 重要なすべての状態と、ルーチンの開始および終了点をトレースします。
任意 (Arbitrary)	すべての開始および終了状態と、低レベルのデバッグ情報をトレースします。
詳細	すべての任意の条件と、詳細なデバッグ情報をトレースします。

次の表に、servlet のデバッグトレースレベル設定について説明します。

表 3: servlet のデバッグトレースレベル

レベル	説明
[致命的 (Fatal)]	アプリケーションが中断する可能性がある重大なエラーイベントをトレースします。
エラー (Error)	アラーム状態およびイベントをトレースします。異常なパスで生成されたすべてのトレースに使用します。
[警告 (Warn)]	損害が発生する可能性がある状況をトレースします。

レベル	説明
[情報 (Info)]	サブレットの問題の多数をトレースし、システムパフォーマンスに最小限の影響を与えます。
[デバッグ (Debug)]	通常運用時に発生するすべての状態遷移条件とメディアレイヤイベントをトレースします。 すべてのロギングを有効にするトレース レベル。

トレース フィールドの説明

一部のサービスでは、サービスのすべてのトレースをイネーブルにする代わりに、特定のコンポーネントのトレースをアクティブ化できます。次のリストに、特定のコンポーネントのトレースをアクティブにできるサービスを示します。いずれかの相互参照をクリックすると該当するセクションに移動し、サービスの各トレースフィールドの説明が表示されます。サービスが次のリストにない場合、[トレース設定 (Trace Configuration)]ウィンドウにそのサービスの [すべてのトレースをイネーブル化 (Enable All Trace)]チェックボックスが表示されます。

以下のサービスは、Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection で利用することができます。

- Database Layer Monitor のトレース フィールド
- Cisco RIS Data Collector のトレース フィールド

以下のサービスは、Unified Communications Manager で利用することができます。

- Cisco CallManager SDI のトレース フィールド
- Cisco CallManager SDL のトレース フィールド
- Cisco CTIManager SDL のトレース フィールド
- Cisco Extended Functions のトレース フィールド
- Cisco エクステンション モビリティのトレース フィールド
- Cisco IP Manager Assistant のトレース フィールド
- Cisco IP Voice Media Streaming App のトレース フィールド
- Cisco TFTP のトレース フィールド
- Cisco WebDialer Web サービスのトレース フィールド

Database Layer Monitor のトレース フィールド

次の表に、Cisco Database Layer Monitor のトレース フィールドを示します。The Cisco Database Layer Monitor サービスは、Unified Communications Manager および Cisco Unity Connectionをサポートします。

表 4: Cisco Database Layer Monitor のトレースのフィールド

フィールド名	説明
DB ライブラリ トレースのイネーブル化 (Enable DB Library Trace)	C++アプリケーションのデータベースライブラリのトレースをアクティブ化します。
サービスのトレースのイネーブル化 (Enable Service Trace)	サービスのトレースをアクティブ化します。
DB変更通知のトレースのイネーブル化 (Enable DB Change Notification Trace)	C++アプリケーションのデータベース変更通知トレースを有効にします。
単体試験のトレースのイネーブル化 (Enable Unit Test Trace)	このチェックボックスはオンにしないでください。デバッグ目的でシスコのエンジニアが使用します。

Cisco RIS Data Collector のトレースのフィールド

次の表に、Cisco RIS Data Collector のトレース フィールドを示します。Cisco RIS Data Collector サービスは、Unified Communications Manager および Cisco Unity Connectionをサポートします。

表 5: Cisco RIS Data Collector のトレースのフィールド

フィールド名	説明
RISDC のトレースのイネーブル化 (Enable RISDC Trace)	RIS データ コレクタ サービス (RIS) の RISDC スレッドのトレースをアクティブ化します。
システムアクセスのトレースのイネーブル化 (Enable System Access Trace)	RIS データ コレクタのシステム アクセス ライブラリのトレースをアクティブ化します。
リンクサービスのトレースのイネーブル化 (Enable Link Services Trace)	RIS データ コレクタのリンク サービス ライブラリのトレースをアクティブ化します。
RISDCアクセスのトレースのイネーブル化 (Enable RISDC Access Trace)	RIS データ コレクタの RISDC アクセス ライブラリのトレースをアクティブ化します。
RISDB のトレースのイネーブル化 (Enable RISDB Trace)	RIS データ コレクタの RISDB ライブラリのトレースを有効にします。
PI のトレースのイネーブル化 (Enable PI Trace)	RIS データ コレクタの PI ライブラリのトレースを有効にします。
XML のトレースのイネーブル化 (Enable XML Trace)	RIS データ コレクタ サービスの入出力 XML メッセージのトレースを有効にします。

フィールド名	説明
Perfmon ロガーのトレースのイネーブル化 (Enable Perfmon Logger Trace)	RIS データ コレクタの perfmon データ ロギングをトラブルシューティングするためのトレースを有効にします。ログファイル、記録されたカウンタの総数、アプリケーションおよびシステムカウンタとインスタンスの名前、プロセスとスレッドの CPU パーセンテージの計算、ログファイルのロールオーバーと削除の発生をトレースするために使用します。

Cisco CallManager SDI のトレース フィールド

次の表では、Cisco CallManager SDI トレースフィールドについて説明します。Cisco CallManager サービスは、Unified Communications Manager をサポートします。

表 6 : Cisco CallManager SDI のトレース フィールド

フィールド名	説明
H245 メッセージトレースの有効化	H245 メッセージのトレースをアクティブ化します。
DT-24+/DE-30+のトレースのイネーブル化 (Enable DT-24+/DE-30+ Trace)	DT-24+/DE-30+ デバイス トレースの ISDN タイプのロギングをアクティブ化します。
PRIのトレースのイネーブル化 (Enable PRI Trace)	一次群速度インターフェイス (PRI) デバイスのトレースをアクティブ化します。
ISDN変換のトレースの有効化 (Enable ISDN Translation Trace)	ISDN メッセージトレースをアクティブにします。通常のデバッグに使用します。
H225 & ゲートキーパートレースの有効化	H.225 デバイスのトレースをアクティブ化します。通常のデバッグに使用します。
Enable Miscellaneous Trace	各種デバイスのトレースをアクティブ化します。 (注) 通常のシステム操作時には、このチェックボックスをオンにしないでください。
会議ブリッジのトレースの有効化 (Enable Conference Bridge Trace)	会議ブリッジのトレースをアクティブ化します。通常のデバッグに使用します。

フィールド名	説明
保留音のトレースのイネーブル化 (Enable Music on Hold Trace)	保留音(MOH)デバイスのトレースをアクティブにします。Unified Communications Managerへの登録、Unified Communications Managerへの登録解除、リソース割り当ての成功または失敗など、MOH デバイスのステータスのトレースのために使用されます。
Unified CM リアルタイム情報サーバのトレースのイネーブル化 (Enable Unified CMReal-Time Information Server Trace)	Real-time Information Server が使用する Unified Communications Manager のリアルタイム情報トレースを有効化します。
SIPスタックのトレースのイネーブル化 (Enable SIP Stack Trace)	SIPスタックのトレースをアクティブ化します。デフォルトではイネーブルになっています。
アナunciエータのトレースのイネーブル化 (Enable Annunciator Trace)	Cisco Unified Communications Manager が、Cisco Unified IP Phone、ゲートウェイ、およびその他の設定可能なデバイスへ、録音済みの音声案内 (.wavファイル) とトーンを再生できるようにするために、Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスを使用するSCCPデバイスである Annunciator のトレースを有効化します。
CDR のトレースのイネーブル化 (Enable CDR Trace)	CDR のトレースをアクティブ化します。
アナログ トランクのトレースのイネーブル化 (Enable Analog Trunk Trace)	すべてのアナログ トランク (AT) ゲートウェイのトレースをアクティブ化します。
すべての電話機のトレースのイネーブル化 (Enable All Phone Device Trace)	電話機のトレースをアクティブ化します。トレース情報にはソフトフォンデバイスが含まれます。通常のデバッグに使用します。
MTPのトレースのイネーブル化 (Enable MTP Trace)	メディア ターミネーション ポイント (MTP) デバイスのトレースをアクティブ化します。通常のデバッグに使用します。
すべてのゲートウェイトレースのイネーブル化 (Enable All Gateway Trace)	すべてのアナログおよびデジタルゲートウェイのトレースをアクティブ化します。
転送と各種のトレースのイネーブル化 (Enable Forward and Miscellaneous Trace)	別のチェックボックスで対象にされていないコール転送およびすべてのサブシステムのトレースをアクティブ化します。通常のデバッグに使用します。

フィールド名	説明
MGCPのトレースのイネーブル化 (Enable MGCP Trace)	メディア ゲートウェイ コントロール プロトコル (MGCP) デバイスのトレースをアクティブ化します。通常のデバッグに使用します。
メディアリソースマネージャのトレースのイネーブル化 (Enable Media Resource Manager Trace)	メディア リソース マネージャ (MRM) のアクティビティのトレースをアクティブ化します。
SIPコール処理トレースの有効化 (Enable SIP Call Processing Trace)	SIP コール処理のトレースを有効化します。
Enable SCCP Keep Alive Trace	Cisco CallManager トレースの SCCP キープアライブトレース情報のトレースをアクティブ化します。各 SCCP デバイスは30秒ごとにキープアライブメッセージをレポートし、各キープアライブメッセージは3行のトレース データを作成するため、このチェックボックスがオンの場合大量のトレース データが生成されます。
Enable SIP Keep Alive (REGISTER Refresh) Trace	Cisco CallManager トレースの SIP キープアライブ (REGISTER Refresh) トレース情報のトレースをアクティブ化します。各 SIP デバイスは2秒ごとにキープアライブメッセージをレポートし、各キープアライブメッセージは複数行のトレース データを作成するため、このチェックボックスがオンの場合大量のトレース データが生成されます。

Cisco CallManager SDL のトレース フィールド

次の表で、Cisco CallManager SDL のトレース フィールド設定について説明します。Cisco CallManager サービスは、Unified Communications Manager をサポートします。



- (注) シスコのエンジニアから指示された場合を除き、デフォルト設定を使用することを推奨します。

表 7: Cisco CallManager SDL の設定に対するトレース フィルタの設定

設定名	説明
すべてのレイヤ1トレースのイネーブル化。 (Enable all Layer 1 traces.)	レイヤ1のトレースをアクティブ化します。

設定名	説明
詳細なレイヤ1のトレースのイネーブル化。 (Enable detailed Layer 1 traces.)	詳細なレイヤ1のトレースをアクティブ化します。
すべてのレイヤ2トレースのイネーブル化。 (Enable all Layer 2 traces.)	レイヤ2のトレースをアクティブ化します。
レイヤ2インターフェイストレースを有効にします。	レイヤ2インターフェースのトレースをアクティブ化します。
レイヤ2TCPのトレースのイネーブル化。 (Enable Layer 2 TCP trace.)	レイヤ2 伝送制御プログラム (TCP) のトレースをアクティブ化します。
詳細なダンプレイヤ2トレースを有効にします。	ダンプレイヤ2の詳細なトレースをアクティブ化します。
すべてのレイヤ3トレースのイネーブル化。 (Enable all Layer 1 traces.)	レイヤ3のトレースをアクティブ化します。
すべてのコール制御のトレースのイネーブル化。 (Enable all call control traces.)	コール制御のトレースをアクティブにします。
各種のポーリングのトレースのイネーブル化。 (Enable miscellaneous polls trace.)	さまざまなポーリングに対するトレースをアクティブ化します。
各種のトレース(データベース信号)のイネーブル化。 (Enable miscellaneous trace (database signals).)	データベースの信号のようなさまざまなトレースをアクティブ化します。
メッセージ変換信号トレースを有効にします。	メッセージ変換信号のトレースをアクティブにします。
UUIEの出力のトレースのイネーブル化。 (Enable UUIE output trace.)	ユーザ間の情報要素 (UUIE) 出力のトレースをアクティブにします。
ゲートウェイ信号トレースを有効にします。	ゲートウェイ信号のトレースをアクティブにします。
CTIのトレースのイネーブル化。 (Enable CTI trace.)	CTIのトレースをアクティブ化します。
ネットワークサービスのデータのトレースのイネーブル化 (Enable network service data trace)	ネットワークサービスのデータのトレースをアクティブ化します。
ネットワークサービスのイベントのトレースのイネーブル化 (Enable network service event trace)	ネットワークサービスのイベントのトレースをアクティブ化します。
ICCP 管理トレースの有効化	ICCP 管理のトレースをアクティブ化します。

設定名	説明
デフォルトのトレースのイネーブル化 (Enable default trace)	デフォルトのトレースをアクティブ化します。

次の表で、Cisco CallManager SDL の設定特性について説明します。

表 8 : Cisco CallManager SDL の設定に対するトレースの特性

特性	説明
SDLリンクステートのトレースのイネーブル化。 (Enable SDL link states trace.)	クラスタ内通信プロトコル (ICCP) リンクステートのトレースをアクティブ化します。
低レベルのSDLのトレースのイネーブル化。 (Enable low-level SDL trace.)	低レベルのSDLのトレースをアクティブ化します。
SDL リンクポーリングトレースを有効にします。	ICCPリンクのポーリングのトレースをアクティブ化します。
SDLリンクメッセージのトレースのイネーブル化。 (Enable SDL link messages trace.)	ICCP未処理メッセージのトレースをアクティブ化します。
信号データダンプトレースを有効にします。	信号データのダンプに対するトレースをアクティブ化します。
関連タグのマッピングのトレースのイネーブル化。 (Enable correlation tag mapping trace.)	関連タグのマッピングに対するトレースをアクティブ化します。
SDLプロセスの状態のトレースのイネーブル化。 (Enable SDL process states trace.)	SDLプロセス状態のトレースを有効にします。
SDLのprettyプリントのトレースの無効化。 (Disable pretty print of SDL trace.)	SDLのprettyプリントに対するトレースを無効化します。prettyプリントでは、後処理を実行しないでトレースファイルにタブとスペースを追加します。
SDL TCP イベントトレースを有効にします。	SDL TCP イベントのトレースをアクティブ化します。

Cisco CTIManager SDL のトレース フィールド

次の表で、Cisco CTIManager SDL 設定のトレース フィルタの設定について説明します。Cisco CTIManager サービスは Unified Communications Manager をサポートします。



ヒント シスコのエンジニアから指示された場合を除き、デフォルト設定を使用することを推奨します。



ヒント [サービスグループ (Service Groups)] ドロップダウンリストボックスから CTIManager サービスを選択すると、[トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウにこのサービスの SDI トレースが表示されます。Cisco CTI Manager サービスに対する SDI トレースをアクティブ化するには、[トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウで Cisco CTIManager サービスに対して [すべてのトレースをイネーブル化 (Enable All Trace)] をオンにします。[SDL Configuration] ウィンドウにアクセスするには、[Related Links] ドロップダウンリストボックスから [Sdl configuration] を選択します。「Cisco CTIManager SDL Configuration Trace Filter Settings」の表および「Cisco CTIManager SDL Configuration Trace の特性」の表に記載されている設定が表示されます。

表 9: Cisco CTIManager の SDL 設定に対するトレース フィルタ設定

設定名	説明
各種のポーリングのトレースのイネーブル化。 (Enable miscellaneous polls trace.)	さまざまなポーリングに対するトレースをアクティブ化します。
各種のトレース(データベース信号)のイネーブル化。 (Enable miscellaneous trace (database signals).)	データベースの信号のようなさまざまなトレースをアクティブ化します。
CTIのトレースのイネーブル化。(Enable CTI trace.)	CTIのトレースをアクティブ化します。
ネットワークサービスのデータのトレースのイネーブル化 (Enable network service data trace)	ネットワークサービスのデータのトレースをアクティブ化します。
ネットワークサービスのイベントのトレースのイネーブル化 (Enable network service event trace)	ネットワークサービスのイベントのトレースをアクティブ化します。
ICCP 管理トレースの有効化	ICCP 管理のトレースをアクティブ化します。
デフォルトのトレースのイネーブル化 (Enable Default Trace)	デフォルトのトレースをアクティブ化します。

次の表で、Cisco CTIManager SDL 設定のトレースの特性について説明します。

表 10: Cisco CTIManager SDL の設定に対するトレースの特性

特性	説明
SDLリンクステートのトレースのイネーブル化。 (Enable SDL link states trace.)	ICCP リンク ステートのトレースをアクティブ化します。
低レベルのSDLのトレースのイネーブル化。 (Enable low-level SDL trace.)	低レベルの SDL のトレースをアクティブ化します。

特性	説明
SDL リンクポーリングトレースを有効にします。	ICCP リンクのポーリングのトレースをアクティブ化します。
SDL リンクメッセージのトレースのイネーブル化。(Enable SDL link messages trace.)	ICCP 未処理メッセージのトレースをアクティブ化します。
信号データダンプトレースを有効にします。	信号データのダンプに対するトレースをアクティブ化します。
関連タグのマッピングのトレースのイネーブル化。(Enable correlation tag mapping trace.)	関連タグのマッピングに対するトレースをアクティブ化します。
SDL プロセスの状態のトレースのイネーブル化。(Enable SDL process states trace.)	SDL プロセス状態のトレースを有効にします。
SDL の pretty プリントのトレースの無効化。(Disable pretty print of SDL trace.)	SDL の pretty プリントに対するトレースを無効化します。pretty プリントでは、後処理を実行しないでトレースファイルにタブとスペースを追加します。
SDL TCP イベントトレースの有効化	SDL TCP イベントのトレースをアクティブ化します。

Cisco Extended Functions のトレース フィールド

次の表では、Cisco Extended Functions のトレースフィールドについて説明します。Cisco Extended Functions サービスは Unified Communications Manager をサポートします。

表 11 : Cisco Extended Functions のトレース フィールド

フィールド名	説明
QBE ヘルパー CTI のトレースのイネーブル化 (Enable QBE Helper TSP Trace)	テレフォニー サービス プロバイダーのトレースをアクティブ化します。
QBE ヘルパー TSPI のトレースのイネーブル化 (Enable QBE Helper TSPI Trace)	QBE ヘルパー TSP インターフェイスのトレースをアクティブ化します。
QRT ディクショナリのトレースのイネーブル化 (Enable QRT Dictionary Trace)	Quality report tool サービスディクショナリのトレースをアクティブにします。
DOM ヘルパーのトレースのイネーブル化 (Enable DOM Helper Traces)	DOM ヘルパーのトレースをアクティブ化します。
冗長性と変更通知トレースの有効化	データベース変更通知のトレースをアクティブ化します。

フィールド名	説明
QRT レポートハンドラトレースの有効化	品質レポート ツールのレポート ハンドラのトレースをアクティブ化します。
QBE ヘルパー CTI トレースの有効化	QBE ヘルパー CTI のトレースをアクティブ化します。
QRTサービスのトレースのイネーブル化 (Enable QRT Service Trace)	Quality report tool サービス関連トレースをアクティブにします。
QRT DB トレースの有効化	QRT DB アクセスのトレースをアクティブ化します。
テンプレートマップのトレースのイネーブル化 (Enable Template Map Traces)	標準テンプレートマップと multimap トレースをアクティブにします。
QRT イベントハンドラトレースの有効化	品質レポート ツールのイベント ハンドラのトレースをアクティブ化します。
QRTリアルタイム情報サーバのトレースのイネーブル化 (Enable QRT Real-Time Information Server Trace)	Quality report tool リアルタイム情報サーバトレースをアクティブにします。

Cisco エクステンション モビリティのトレース フィールド

次の表では、Cisco Extension Mobility のトレースフィールドについて説明します。Cisco Extension Mobility サービスは Unified Communications Manager をサポートします。

表 12: Cisco エクステンション モビリティのトレース フィールド

フィールド名	説明
EMサービスのトレースのイネーブル化 (Enable EM Service Trace)	Cisco エクステンション モビリティ サービスのトレースをアクティブ化します。



ヒント Cisco Extension Mobility アプリケーションサービスのトレースをアクティブ化する場合は、Cisco Cisco Extension Mobility アプリケーションサービスの [トレースの設定 (Trace Configuration)] ウィンドウで [すべてのトレースのイネーブル化 (Enable All Trace)] チェックボックスをオンにします。

Cisco IP Manager Assistant のトレース フィールド

次の表では、Cisco IP Manager Assistant のトレースフィールドについて説明します。Cisco IP Manager Assistant サービスは、Cisco Unified Communications Manager Assistant をサポートしています。

表 13: Cisco IP Manager Assistant のトレース フィールド

フィールド名	説明
IPMAサービスのトレースのイネーブル化 (Enable IPMA Service Trace)	Cisco IP Manager Assistant サービスのトレースをアクティブ化します。
IPMA Managerの設定変更ログのイネーブル化 (Enable IPMA Manager Configuration Change Log)	マネージャとアシスタントの設定に加えた変更のトレースをアクティブにします。
IPMA CTI トレースの有効化	CTI Manager 接続のトレースをアクティブにします。
IPMA CTIセキュリティのトレースのイネーブル化 (Enable IPMA CTI Security Trace)	CTI Managerのセキュアな接続に対するトレースをアクティブ化します。

Cisco IP Voice Media Streaming App のトレース フィールド

ここで説明する内容は、Cisco Unity Connection には適用されません。

次の表では、Cisco IP Voice Media Streaming App トレースのフィールドについて説明します。Cisco IP Voice Media Streaming アプリ サービスは、Unified Communications Manager をサポートします。

表 14: Cisco IP Voice Media Streaming Application のトレース フィールド

フィールド名	説明
サービス初期化のトレースのイネーブル化 (Enable Service Initialization Trace)	初期化情報のトレースをアクティブ化します。
MTPデバイスのトレースのイネーブル化 (Enable MTP Device Trace)	メディア ターミネーション ポイント (MTP) 用に処理されたメッセージをモニタするトレースをアクティブ化します。
デバイスリカバリのトレースのイネーブル化 (Enable Device Recovery Trace)	MTP、会議ブリッジ、MOH に対するデバイスリカバリ情報のトレースをアクティブ化します。
Skinny Stationメッセージのトレースのイネーブル化 (Enable Skinny Station Messages Trace)	Skinny Station Protocol のトレースをアクティブ化します。
WinSockレベル2のトレースのイネーブル化 (Enable WinSock Level 2 Trace)	高レベルで詳細な WinSock 関連情報のトレースをアクティブ化します。
保留音マネージャのトレースのイネーブル化 (Enable Music On Hold Manager Trace)	MOH オーディオ ソース マネージャをモニタするトレースをアクティブ化します。

フィールド名	説明
アナウンシエータのトレースのイネーブル化 (Enable Annunciator Trace)	アナウンシエータをモニタするトレースをアクティブ化します。
DB設定マネージャのトレースのイネーブル化 (Enable DB Setup Manager Trace)	MTP、会議ブリッジ、MOHに対するデータベース設定や変更をモニタするトレースをアクティブ化します。
会議ブリッジデバイスのトレースの有効化 (Enable Conference Bridge Device Trace)	トレースをアクティブにして、会議ブリッジの処理されたメッセージをモニタします。
デバイスドライバのトレースのイネーブル化 (Enable Device Driver Trace)	デバイスドライバのトレースをアクティブ化します。
WinSockレベル1のトレースのイネーブル化 (Enable WinSock Level 1 Trace)	低レベルで一般的な WinSock 関連情報のトレースをアクティブ化します。
保留音デバイスのトレースのイネーブル化 (Enable Music on Hold Device Trace)	MOH 用に処理されたメッセージをモニタするトレースをアクティブ化します。
TFTPダウンロードのトレースのイネーブル化 (Enable TFTP Downloads Trace)	MOH オーディオ ソース ファイルのダウンロードをモニタするトレースをアクティブ化します。

Cisco TFTP のトレース フィールド

次の表に、Cisco TFTP のトレース フィールドを示します。Cisco TFTP サービスは、Unified Communications Manager をサポートします。

表 15: Cisco TFTP のトレース フィールド

フィールド名	説明
サービスシステムのトレースのイネーブル化 (Enable Service System Trace)	サービスシステムのトレースをアクティブにします。
ビルドファイルのトレースのイネーブル化 (Enable Build File Trace)	ビルドファイルのトレースをアクティブにします。
サーブファイルのトレースのイネーブル化 (Enable Serve File Trace)	サーブファイルのトレースをアクティブにします。

Cisco WebDialer Web サービスのトレース フィールド

次の表では、Cisco Web Dialer Web サービスのトレースフィールドについて説明します。Cisco Web Dialer Web Service は Unified Communications Manager をサポートします。

表 16: Cisco WebDialer Web サービスのトレース フィールド

フィールド名	説明
Web Dialer サーブレットトレースの有効化	Cisco WebDialer Servlet のトレースをアクティブ化します。
リダイレクターサーブレットトレースの有効化	リダイレクターサーブレットのトレースをアクティブにします。

IM and Presence SIP Proxy サービスのトレース フィルタの設定

次の表では、IM and Presence SIP Proxy のトレース フィルタの設定について説明します。

表 17: IM and Presence SIP Proxy サービスのトレース フィルタの設定

パラメータ	説明
Access Log のトレースのイネーブル化 (Enable Access Log Trace)	プロキシ アクセス ログ トレースをイネーブルにします。プロキシが受信した各 SIP メッセージの先頭行がログに記録されます。
Authentication のトレースのイネーブル化 (Enable Authentication Trace)	認証モジュールのトレースをイネーブルにします。
Calendar のトレースのイネーブル化 (Enable CALENDAR Trace)	カレンダー モジュールのトレースをイネーブルにします。
CTI ゲートウェイのトレースのイネーブル化 (Enable CTI Gateway Trace)	CTI ゲートウェイのトレースをイネーブルにします。
Enum のトレースのイネーブル化 (Enable Enum Trace)	Enum モジュールのトレースをイネーブルにします。
Method/Event ルーティングのトレースのイネーブル化 (Enable Method/Event Routing Trace)	メソッド/イベントルーティング モジュールのトレースをイネーブルにします。

パラメータ	説明
Number Expansion のトレースのイネーブル化 (Enable Number Expansion Trace)	Number Expansion モジュールのトレースをイネーブルにします。
Parser のトレースのイネーブル化 (Enable Parser Trace)	sipd の子 SIP パーサーの動作に関するパーサー情報のトレースをイネーブルにします。
Privacy のトレースのイネーブル化 (Enable Privacy Trace)	プライバシー要求に関する PAI、RPID、および Diversion ヘッダーの処理に関する情報のトレースをイネーブルにします。
Registry のトレースのイネーブル化 (Enable Registry Trace)	Registry モジュールのトレースをイネーブルにします。
Routing のトレースのイネーブル化 (Enable Routing Trace)	Routing モジュールのトレースをイネーブルにします。
SIPUA トレースのイネーブル化 (Enable SIPUA Trace)	SIP UA アプリケーション モジュールのトレースをイネーブルにします。
Server のトレースのイネーブル化 (Enable Server Trace)	Server のトレースをイネーブルにします。
SIP メッセージとステート マシンのトレースのイネーブル化 (Enable SIP Message and State Machine Trace)	sipd ごとの SIP マシンの動作に関する情報のトレースをイネーブルにします。
SIP TCP のトレースのイネーブル化 (Enable SIP TCP Trace)	TCP サービスによる SIP メッセージの TCP トランスポートのトレースをイネーブルにします。
SIP TLS のトレースのイネーブル化 (Enable SIP TLS Trace)	TCP サービスによる SIP メッセージの TLS トランスポートのトレースをイネーブルにします。

パラメータ	説明
SIP XMPP IM ゲートウェイ トレースのイネーブル化 (Enable SIP XMPP IM Gateway Trace)	SIP XMPP IM ゲートウェイのトレースをイネーブルにします。
Presence Web Service のトレースのイネーブル化 (Enable Presence Web Service Trace)	Presence Web Service のトレースをイネーブルにします。

IM and Presence トレースフィールドの説明

次の表に、特定のコンポーネントのトレースアクティベーションをサポートするサービスのフィールドの説明を示します。一部のサービスでは、サービスのすべてのトレースをイネーブルにする代わりに、特定のコンポーネントのトレースをアクティブ化できます。この章にないサービスの場合は、[トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウで、そのサービスに [すべてのトレースをイネーブル化 (Enable All Trace)] が表示されます。

Cisco Access Log のトレースのフィールド

次の表に、Cisco Access Log のトレース フィールドを示します。

表 18: Access Log のトレース フィールド

フィールド名	説明
Access Log のトレースのイネーブル化 (Enable Access Log Trace)	Access Log のトレースを有効にします。

Cisco Authentication のトレースのフィールド

次の表に、Cisco Authentication のトレース フィールドを示します。

表 19: Authentication のトレース フィールド

フィールド名	説明
Authentication のトレースのイネーブル化 (Enable Authentication Trace)	認証トレースを有効にします。

Cisco Calendar のトレースのフィールド

次の表に、Cisco Calendar のトレース フィールドを示します。

表 20: *Calendar* のトレース フィールド

フィールド名	説明
Calendar のトレースのイネーブル化 (Enable CALENDAR Trace)	Calendar のトレースを有効にします。

Cisco CTI ゲートウェイのトレースのフィールド

次の表に、Cisco CTI ゲートウェイのトレース フィールドを示します。

表 21: *CTI* ゲートウェイのトレースのフィールド

フィールド名	説明
CTI ゲートウェイのトレースのイネーブル化 (Enable CTI Gateway Trace)	CTI ゲートウェイのトレースを有効にします。

Cisco Database Layer Monitor のトレースのフィールド

次の表に、Cisco Database Layer Monitor のトレース フィールドを示します。

表 22: *Cisco Database Layer Monitor* のトレースのフィールド

フィールド名	説明
DB ライブラリ トレースのイネーブル化 (Enable DB Library Trace)	C++アプリケーションのデータベースライブラリのトレースをイネーブルにします。
サービスのトレースのイネーブル化 (Enable Service Trace)	サービストレースをオンにします。
DB変更通知のトレースのイネーブル化 (Enable DB Change Notification Trace)	C++アプリケーションのデータベース変更通知トレースを有効にします。
単体試験のトレースのイネーブル化 (Enable Unit Test Trace)	オンにしません。デバッグ目的でシスコのエンジニアが使用します。

Cisco Enum のトレース フィールド

次の表に、Cisco Enum のトレース フィールドを示します。

表 23: *Enum* のトレース フィールド

フィールド名	説明
Enum のトレースのイネーブル化 (Enable Enum Trace)	Enum のトレースをアクティブ化します。

Cisco Method/Event のトレース フィールド

次の表では、Cisco Method/Event トレースフィールドについて説明します。

表 24: メソッド/イベントトレースのフィールド

フィールド名	説明
Method/Event のトレースのイネーブル化 (Enable Method/Event Trace)	Method/Event のトレースをイネーブルにします。

Cisco Number Expansion のトレース フィールド

次の表に、Cisco Number Expansion のトレース フィールドを示します。

表 25: *Number Expansion* のトレース フィールド

フィールド名	説明
Number Expansion のトレースのイネーブル化 (Enable Number Expansion Trace)	Number Expansion のトレースを有効にします。

Cisco Parser のトレース フィールド

次の表に、Cisco Parser のトレース フィールドを示します。

表 26: *Parser* のトレース フィールド

フィールド名	説明
Parser のトレースのイネーブル化 (Enable Parser Trace)	Parser のトレースを有効にします。

Cisco Privacy のトレースのフィールド

次の表に、Cisco Privacy のトレース フィールドを示します。

表 27: *Privacy* のトレース フィールド

フィールド名	説明
Privacy のトレースのイネーブル化 (Enable Privacy Trace)	Privacy のトレースをアクティブ化します。

Cisco Proxy のトレース フィールド

次の表に、Cisco Proxy のトレース フィールドを示します。

表 28: Proxy のトレース フィールド

フィールド名	説明
代理権限	Proxy のトレースをアクティブ化します。

Cisco RIS Data Collector のトレースのフィールド

次の表に、Cisco RIS Data Collector のトレース フィールドを示します。

表 29: Cisco RIS Data Collector のトレースのフィールド

フィールド名	説明
RISDC のトレースのイネーブル化 (Enable RISDC Trace)	RIS データ コレクタ サービス (RIS) の RISDC スレッドのトレースをアクティブ化します。
システムアクセスのトレースのイネーブル化 (Enable System Access Trace)	RIS データ コレクタのシステム アクセス ライブラリのトレースをアクティブ化します。
リンクサービスのトレースのイネーブル化 (Enable Link Services Trace)	RIS データ コレクタのリンク サービス ライブラリのトレースをアクティブ化します。
RISDCアクセスのトレースのイネーブル化 (Enable RISDC Access Trace)	RIS データ コレクタの RISDC アクセス ライブラリのトレースをアクティブ化します。
RISDB のトレースのイネーブル化 (Enable RISDB Trace)	RIS データ コレクタの RISDB ライブラリのトレースを有効にします。
PI のトレースのイネーブル化 (Enable PI Trace)	RIS データ コレクタの PI ライブラリのトレースを有効にします。
XML のトレースのイネーブル化 (Enable XML Trace)	RIS データ コレクタ サービスの入出力 XML メッセージのトレースを有効にします。
Perfmon ロガーのトレースのイネーブル化 (Enable Perfmon Logger Trace)	RIS データ コレクタの perfmon データ ロギングをトラブルシューティングするためのトレースを有効にします。ログファイル、記録されたカウンタの総数、アプリケーションおよびシステムカウンタとインスタンスの名前、プロセスとスレッドの CPU パーセンテージの計算、ログファイルのロールオーバーと削除の発生をトレースするために使用します。

Cisco Registry のトレースのフィールド

次の表に、Cisco Registry のトレース フィールドを示します。

表 30: *Registry* のトレース フィールド

フィールド名	説明
Registry のトレースのイネーブル化 (Enable Registry Trace)	Registry のトレースを有効にします。

Cisco Routing のトレースのフィールド

次の表に、Cisco Routing のトレース フィールドを示します。

表 31: *Routing* のトレース フィールド

フィールド名	説明
Routing のトレースのイネーブル化 (Enable Routing Trace)	ルーティング トレースを有効にします。

Cisco Server のトレースのフィールド

次の表に、Cisco Server のトレース フィールドを示します。

表 32: *Server* のトレース フィールド

フィールド名	説明
Server のトレースのイネーブル化 (Enable Server Trace)	Server のトレースをアクティブ化します。

Cisco SIP Message と State Machine のトレースのフィールド

次の表に、Cisco SIP Message と State Machine のトレース フィールドを示します。

表 33: *SIP Message* と *State Machine* のトレース フィールド

フィールド名	説明
SIP メッセージとステート マシンのトレースのイネーブル化 (Enable SIP Message and State Machine Trace)	SIP メッセージとステート マシンのトレースを有効にします。

Cisco SIP TCP のトレース フィールド

次の表に、Cisco SIP TCP のトレース フィールドを示します。

表 34: SIP TCP のトレース フィールド

フィールド名	説明
SIP TCP のトレースのイネーブル化 (Enable SIP TCP Trace)	SIP TCP のトレースを有効にします。

Cisco SIP TLS のトレースのフィールド

次の表に、Cisco SIP TLS のトレース フィールドを示します。

表 35: SIP TLS のトレース フィールド

フィールド名	説明
SIP TLS のトレースのイネーブル化 (Enable SIP TLS Trace)	SIP TLS のトレースを有効にします。

Cisco Web Service のトレースのフィールド

次の表に、Cisco Web Service のトレース フィールドを示します。

表 36: Web Service のトレース フィールド

フィールド名	説明
Presence Web Service のトレースのイネーブル化 (Enable Presence Web Service Trace)	Presence Web Service のトレースを有効にします。

Trace Output Settings

次の表に、トレース ログ ファイルの説明を示します。



注意 [トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウで [最大ファイル数 (Maximum No. of Files)] または [最大ファイル サイズ (Maximum File Size)] を変更すると、サービスが実行中の場合は現在のファイル以外のすべてのサービスログファイルが削除されます。サービスがアクティブ化されていない場合は、サービスをアクティブ化したときにただちにファイルが削除されます。ログ ファイルの記録を保持する必要がある場合は、[最大ファイル数 (Maximum No. of Files)] または [最大ファイル サイズ (Maximum File Size)] の設定を変更する前に、サービスログファイルをダウンロードして別のサーバに保存してください。そのためには、Unity RTMT の Trace and Log Central を使用します。

表 37: Trace Output Settings

フィールド	説明
最大ファイル数 (Maximum number of files)	指定したサービスのトレースファイルの総数を指定します。 Cisco Unified Serviceability では、ファイルを識別するために、cus299.txt のようにファイル名にシーケンス番号が自動的に追加されます。シーケンス中の最後のファイルが一杯になると、最初のファイルのトレースデータが上書きされます。デフォルトはサービスによって異なります。
最大ファイルサイズ(MB) (Maximum file size (MB))	トレースファイルの最大サイズ (MB 単位) を指定します。デフォルトはサービスによって異なります。

トレース設定のトラブルシューティング

トラブルシューティング トレース設定ウィンドウ

[トラブルシューティング トレース設定 (Troubleshooting Trace Settings)] ウィンドウでは、事前に設定されたトラブルシューティング トレース設定を行う Serviceability GUI のサービスを選択できます。このウィンドウでは、クラスタ内の異なる ノードに対してサービスを選択できます。これにより、選択したすべてのサービスのトレース設定の変更が行われます。1台のノードの特定のアクティブなサービスの選択、そのノードのすべてのアクティブなサービスの選択、クラスタ内のすべてのノードの特定のアクティブなサービスの選択、クラスタ内のすべてのノードのすべてのアクティブなサービスの選択が可能です。このウィンドウでは、非アクティブなサーバの横に [N/A] と表示されます。



- (注) IM and Presence の場合、IM and Presence 機能またはネットワーク サービスの事前に決定されたトラブルシューティング トレース設定には、SDI および Log4j トレースの設定があります。トラブルシューティング トレース設定が適用される前に、元のトレース設定がバックアップされます。トラブルシューティング トレース設定をリセットすると、元のトレース設定が復元されます。

トラブルシューティング トレース設定をサービスに適用した後で [トラブルシューティング トレース設定 (Troubleshooting Trace Settings)] ウィンドウを開くと、トラブルシューティング用に設定したサービスがチェック付きで表示されます。[トラブルシューティング トレース設定 (Troubleshooting Trace Settings)] ウィンドウでは、トレース設定を元の設定にリセットできません。

トラブルシューティング トレース設定をサービスに適用すると、トラブルシューティング トレースがそのサービスに設定されたことを示すメッセージが [トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウに表示されます。サービスの設定をリセットする場合は、[関連リンク (Related Links)] リスト ボックスから、[トラブルシューティング トレース設定 (Troubleshooting Trace Settings)] オプションを選択できます。指定したサービスの [トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウでは、すべての設定が読み取り専用として表示されます。ただし、最大ファイル数など、トレース出力設定の一部のパラメータを除きます。

トラブルシューティング トレース設定

始める前に

トレース設定のセットアップタスクを確認し、トレースパラメータを設定します。

手順

ステップ 1 [トレース (Trace)] > [トラブルシューティング トレース設定 (Troubleshooting Trace Settings)] を選択します。

ステップ 2 [サーバ (Server)] リスト ボックスから、トレース設定をトラブルシューティングするサーバを選択します。

ステップ 3 [移動 (Go)] を選択します。

サービスの一覧が表示されます。アクティブ化されていないサービスは、[該当なし (N/A)] と表示されます。

ステップ 4 次のいずれかの操作を実行します。

a) [サーバ (Server)] リスト ボックスで選択したノードの特定のサービスをモニタするには、[サービス (Services)] ペインでそのサービスをオンにします。

たとえば、[データベースおよび管理サービス (Database and Admin Services)]、[パフォーマンスおよびモニタリング サービス (Performance and Monitoring Services)]、[バックアップおよび復元サービス (Backup and Restore Services)] ペインなどがあります。

この作業は、[サーバ (Server)] リスト ボックスで選択したノードのみに影響します。

b) [サーバ (Server)] リスト ボックスで選択したノードのすべてのサービスをモニタするには、[すべてのサービスをチェック (Check All Services)] をオンにします。

c) Cisco Unified Communications Manager および IM and Presence クラスタのみ：クラスタ内のすべてのノードで特定のサービスをモニタするには、[すべてのノードで選択されたサービスをチェック (Check Selected Services on All Nodes)] をチェックします。

この設定は、クラスタ内のサービスがアクティブなすべてのノードに適用されます。

d) Unified Communications Manager and IM and Presence クラスタのみ：クラスタのすべてのサービスをモニタするには、**すべてのノードのすべてのサービスをチェックする**をオンにします。

ステップ 5 [保存] を選択します。

ステップ 6 元のトレース設定に戻すには、次のいずれかのボタンをクリックします。

- a) [トラブルシューティングトレースをリセット (Reset Troubleshooting Traces)]: [サーバ (Server)]リストボックスで選択したノードで元のトレース設定を復元します。また、選択可能なアイコンも表示されます。
- b) Cisco Unified Communications Manager および IM and Presence クラスタのみ: [すべてのノードでトラブルシューティングトレースをリセット (Reset Troubleshooting Traces On All Nodes)]: クラスタ内のすべてのノードでサービスの元のトレース設定を復元します。

[トラブルシューティングトレースをリセット (Reset Troubleshooting Traces)] ボタンは、1 つ以上のサービスのトラブルシューティング トレースを設定してある場合にのみ表示されます。

(注) トラブルシューティングトレースを長時間イネーブルのままにすると、トレースファイルのサイズが大きくなり、サービスのパフォーマンスに影響が生じるおそれがあります。

[リセット (Reset)] ボタンをクリックすると、ウィンドウが更新され、サービスのチェックボックスがオフになります。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。